

学校を卒業したら正社員として就職し、若くして結婚し子どもを持つ……。かつてはそんな人生が多かったかもしれない。しかし今は非正規雇用が拡大するとともに、未婚化なども進み、若者が社会の中で「大人」としての足場を築く道筋は多様になった。

そんな多様な道筋のなかで、若者は今、どんな課題に直面しているのか。どんな支援策が必要なのか。25〜30歳を対象にした独自の調査を踏まえて探ったのが本書だ。とりわけ韓国など海外3カ国との比較を盛り込んでいる点がユニークだ。

## 困難な道筋に必要な支援策探る

国際比較で浮き彫りになったのは、日本における男女の違いの大きさだ。女性に非正規雇用が多いだけでなく、「管理職を目指したいか」などの意識面でも男女差が目立つ。政府が経済成長の柱に掲げる「女性の活躍」を進めるためにも、よりきめ細かい対策が必要なことがうかがえる。

国内外の研究者13人による共同研究であり、各国の個別事情に言及した部分も多い。兵役がある韓国、経済状況が厳しいイタリア……。全体としての統一感はやや薄れる面もあるが、興味深く読める。

若者が自立していかれるかどうかは、社会のこれからを左右する。調査の時期は2007〜10年とやや古い。だが本書が問いかけているテーマはなんら古びるものではない。

(新曜社・4600円)

